

無縁社会、 限界集落化のなかで

西林長太郎副会長（二宮町東市場）



私たちの住む穴栗市も一段と高齢化が進み、私の周りでもひとり暮らしや二人暮らしの世帯が増えていきます。

このような人たちへの「声かけ」や自立を支えるための事業が必要です。

関係者だけでなく、住民同士での支え合いを考えていきましょう。

安心、安全の社会構築のために！

社協活動に活力を

堂場政彦副会長（千種町河内）



高齢者や障がい者、子育て中の親子等が安心して暮らせる社会の実現は、古くて新しい課題です。

不景気の中にあっても、こうした社会を目指す社協の活動が後退しないために、住民の方々の一層の支援をお願いしたいと思います。

地域により深く

水谷 雄理事（山崎町加生）



少子高齢化が進むなか、社会福祉協議会の役割はますます重要性を増してきました。

住み慣れた地域で安心して暮らしていたために、福祉サービス利用援助事業、成年後見制度等の包括的利用を進め、高齢者や障がいのある方が安心して暮らせる穴栗になるよう頑張りたい。

2011年の穴栗市社協 理事の新春メッセージ 地域でのつながりを

少子高齢化や世帯の縮小化がすすみ、地域の中での孤立を防止。現在、これからの穴栗の地域福祉をどう進めるのか。新しい年の市社協と地域福祉への思いを語りました。

心の過疎にならないように

植田美代子理事（波賀町野尻）



少子高齢化が進む現在、めまぐるしく移り変わる社会の中で、各々には一生懸命歩んでいるけれど、回りに目をむけるゆとりはどうかあるか、と思いつつ日が過ぎていきます。

人間はひとりでは生きていけない、お互いさまさまざまな思いの中にも支え合う事の嬉しさ、人と人とのふれあいの中で心の絆を大切に、地域全体で力を合わせ、「心の過疎」にならないように、福祉力を高めていきたいです。

今こそ、地域力

山本康子理事（千種町下河野）



地域の福祉は、地域の人が参加し、行政、社協と協働して解決していく。

そこからきずな、結びつき、支え合いが生まれ、人のやさしさも地域で生かされるのではないだろうか。

ひとりの小さな力でも地域で生かしたいものです。

第二次地域福祉推進計画に 期待を込めて

平岡千恵子理事（山崎町高下）



平成23年度は地域を元気にする具体的メニュー「第二次地域福祉推進計画」が動き出します。

誰もが安心して暮らすためのメニューは、①支え合い活動 ②本人が主役になれる医療・介護 ③交通移動権の確保をおなか一杯食へてみようと思っています。皆様も一緒に、自分のお好みの分野でお試し下さることを願っています。

ふくしの心を 高めましょう！

杉尾 克理事（市健康福祉部次長）



「あいさつ」や「声かけ」は会話のきっかけづくりとなり、人と人とのつながりを強め、毎日を気持ちよく過ごすためにとても大切なものです。

「あいさつ」「声かけ」から「ふくしの心」の高まりを目指し、『あいさつ声かけ運動』を実施しましょう！

読者の
感想より

高齢夫婦世帯やひとり暮らしの人が増えています。人ごとやないですね。どうやって自分のまわりの人と支えあって生きていくか、身にしみて感じるようになりました。（山崎町 女性）